

岐阜市

加納西保育園

ぎふの木育教材導入支援事業

木材に触れ五感で遊ぶ



「自然を大事にできる心を育てたい」と語る伊藤洋子園長
岐阜市加納神明町、加納西保育園

「先生、いい匂いがするね」。自分で磨いた積み木に鼻をくっつけて、子どもたちが無邪気に声を上げる。岐阜市加納神明町の加納西保育園で先月9日に行われた木育教室。県産材であるスギやヒノキ、カシなどを原材料にしたさまざまな形の積み木を、サンドペーパーで磨き、ワックス代わりに蜜ろうを塗る。園児らは作業を通じ、木の匂いや手触り、色、模様などの違いを感じた後、完成した積み木をプールに浮かべて、水上での積み木遊びを楽しんだ。

同園は、2010年4月に民営化。社会福祉法人和光会が運営して「木育」「食育」「知育」を3本柱に据え、体験を通じた学びに重点を置く。11年には、県の木と緑の学習推進事業のモデル園として、県木育推進員を講師に招いた木育教室を実施。それから2年間、独自の予算で積み木作りを続けてきた。

基金を積極活用

こうした木育の取り組みを充実させようと、昨年度からは森林・環境税を活用。昨年度は▽3歳未満のクラスの木製テーブルと椅子17脚を購入（ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業）▽県産材を使ったおもちゃ2セットを購入（ぎふの木育教材導入支援事業）▽木のアクセサリー作り開催（森と木と水の環境教育推進事業）の三つのメニューで、基金を活用した。同園の伊藤洋子園長（64）は「幼少期に木材に触れることは非常に重要。五感を通じて覚えたことは、いつまでも体に染み込んでいるもの」と話す。

集中力と好奇心

伊藤園長は「県産材を使ったおもちゃなどは高価な物が多いが、子どもたちが県産材の木に触れる体験は大きな意味がある」とし、「木のぬくもりに触れることで、物の大



木の感触を楽しむ園児ら＝岐阜市加納神明町、加納西保育園

中でも、基金を活用して購入した木のおもちゃは子どもたちに大人気。ヒノキやスギ、ブナなどさまざまな種類の木片を丸くした「まあるいつみき」は、年齢を問わず遊べるおもちゃだ。触ったり、匂いを嗅いだり、子どもたちはそれぞれに木の特性を楽しんでいる。

今年秋には木の実や枯れ葉を食材に見立てた、野外でのままごと遊びを計画しているほか、県産材を使った靴脱ぎ用の箱椅子の製作なども予定。伊藤園長は「木育の導入で、子どもたちに集中力と好奇心が身につけてきた」と成果を実感し、「子どもたちには、自然を大事にできる心、物を大事にする心を育みたい。木育を通じて、命の大切さを学んでもらえれば」と優しくほほ笑んだ。

清流の国ぎふ森林・環境税を活用した事業の紹介【6】

ぎふの木育教材導入支援事業

～公共施設等における県産材の利用促進～

子どもたちに、豊かな心を育む「ぎふ木育」の取り組みを進めるため、県内の教育福祉関連施設を対象にぎふの木を使った教材の導入を支援しています。

- 事業概要**
- (1) 対象事業者 市町村、学校法人、社会福祉法人、子育てNPO法人等
 - (2) 対象施設 幼稚園、保育園、小中学校、児童福祉施設等
 - (3) 対象教材 県産材で作られた「木のおもちゃ」「木製品キット」など
 - (4) 助成額 購入費用の1/2以内(1施設あたり10万円上限)
- <平成24年度実績> 導入施設数/70施設 教材導入数/841セット



この他、教育福祉関連施設の木造化、内装木質化、学校の木の机・椅子等の導入を進めています。